

調査の概要

- 1 根拠要領：神奈川県年齢別人口統計調査事務処理要領
- 2 調査時期：平成 22 年 1 月 1 日午前零時現在
- 3 調査方法

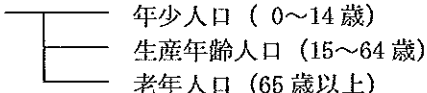
この調査は、平成 17 年国勢調査による年齢別人口を基礎とし、毎年 1 月 1 日現在の年齢別人口を、市町村長の報告に基づく住民基本台帳法、外国人登録法及び戸籍法に定める出生、死亡、転入、転出の年齢別異動人口を加減して算出し、県でとりまとめたものです。

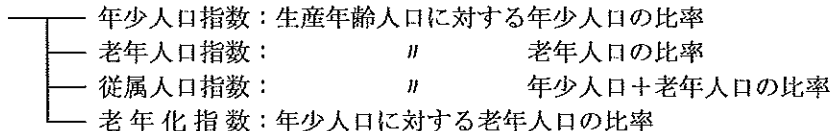
- 4 地域別市町村名

地域名	市町村名
横浜・川崎	横浜市、川崎市
横須賀三浦	横須賀市、鎌倉市、逗子市、三浦市、葉山町
県央	相模原市、厚木市、大和市、海老名市、座間市、綾瀬市、愛川町、清川村
湘南	平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市、寒川町、大磯町、二宮町
足柄上	南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町
西湘	小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町

用語の解説

- 1 年齢：調査日前日による満年齢

- 2 年齢（3区分）別人口 

- 3 年齢構造指数 

- 4 性比：女性 100 人に対する男性の数

- 5 平均年齢の算出方法

$$\text{平均年齢} = \frac{\text{年齢（各歳）} \times \text{各歳別人口}}{\text{総人口} - \text{年齢不詳人口}} + 0.5 \text{（満年齢後の経過月数調整値）}$$

（小数点第 3 位以下切り捨て）

利用上の注意

- 1 神奈川県年齢別人口統計調査は、昭和 51 年 1 月 1 日現在調査（昭和 50 年 10 月 1 日現在実施の国勢調査による年齢別人口を基礎として推計）から本県が毎年実施しているものであり、それ以前の年齢別人口統計は大正 9 年から総務省が 5 年ごとに実施している国勢調査の統計を使用しています。
- 2 年齢不詳者は、平成 17 年国勢調査時点（平成 17 年 10 月 1 日現在）の数値で、国勢調査の中間年次（平成 18 年～22 年）はその数値を使用します。
- 3 全国の数値は、総務省統計局発行「人口推計月報」による平成 22 年 1 月 1 日現在推計人口（確定値）を使用しています。
- 4 数字の単位未満は四捨五入してあり、合計の数字と内訳の計が一致しない場合があります。
- 5 解説中に用いている「ポイント」とは、比率の差を表します。

調査結果の概要

1 年齢(3区分)別人口

- (1) 平成22年1月1日現在の神奈川県は、900万8132人(男性453万6511人、女性447万1621人)です。【表1, 3, 4参照】
- (2) 年齢(3区分)別人口は、年少人口(0~14歳)119万8085人、生産年齢人口(15~64歳)598万6690人、老年人口(65歳以上)178万4794人となり、老年人口が年少人口を58万6709人上回っています。【図1, 表1, 11参照】
- (3) 平成21年1月1日現在の調査(以下「前年調査」という。)に比べると、総人口は4万2780人増加しており、年少人口は633人、生産年齢人口は2万1163人の減少し、老年人口は6万4576人増加となっています。【図2, 表1, 6, 11参照】
- (4) 年齢(3区分)別人口の構成比は、前年調査に比べ、年少人口は0.1ポイント低下し13.3%(全国平均13.3%)、生産年齢人口は0.5ポイント低下し66.5%(同63.8%)、老年人口は0.6ポイント上昇し19.8%(同22.8%)となっていますが、それでも全国平均と比べると、生産年齢人口では2.7ポイント高く、老年人口では3.0ポイント低くなっています。【図3, 表1, 6参照】
- (5) 年齢構造指数のうち、年少人口指数は20.0、老年人口指数は29.8となっており、この2つの指数を合わせた従属人口指数は49.8で、これによると、2.0人の現役で1人の年少者又は高齢者を支えていることとなります。また、老年化指数は149.0で、年少者1人に対し高齢者1.5人の割合となっています。なお、これらの値はすべて全国平均(年少人口指数20.9、老年人口指数35.8、従属人口指数56.6、老年化指数171.5)より低くなっています。【図4, 表2参照】

図1

人口ピラミッド(年齢(各歳)、男女別人口)

平成22年1月1日現在

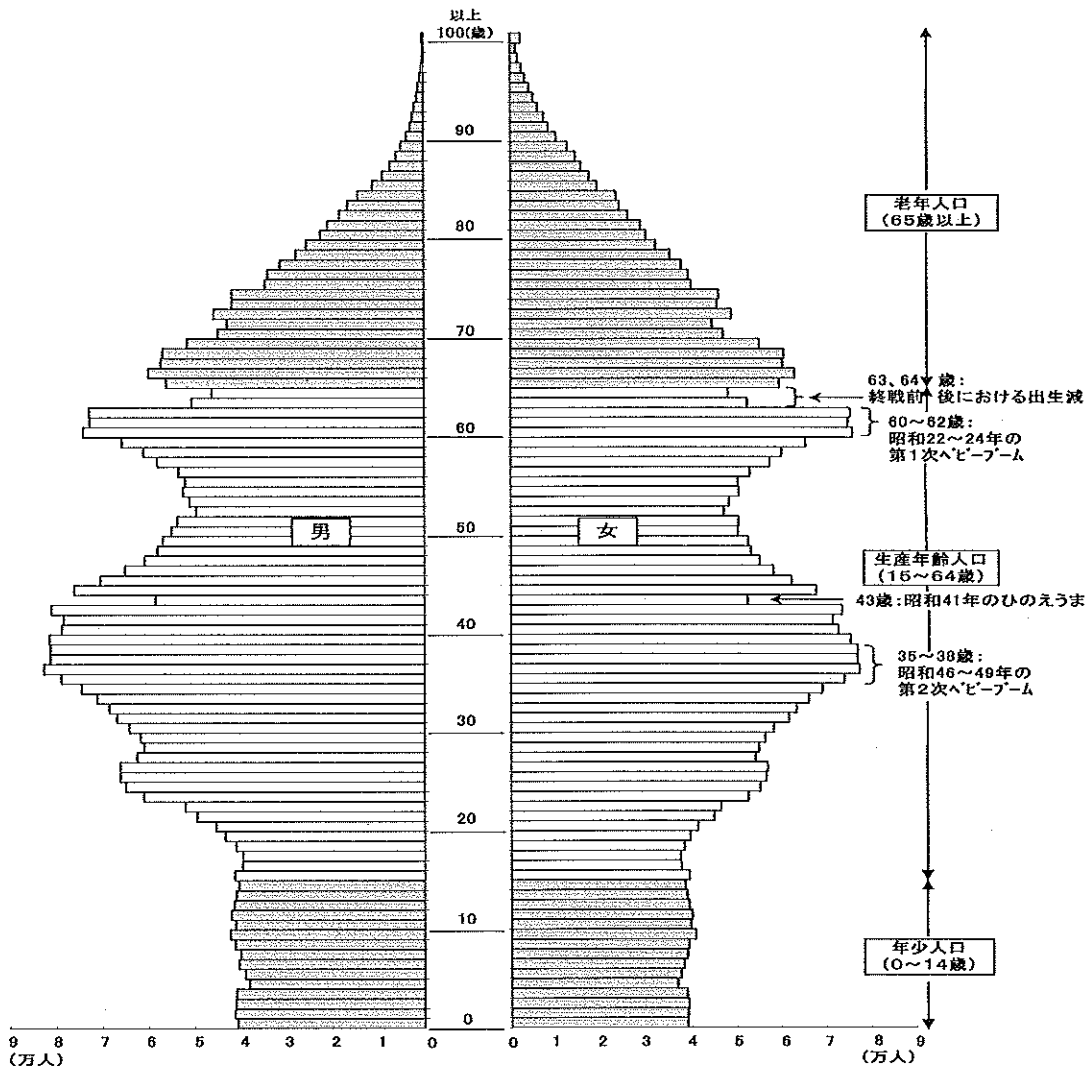


図2 年齢（3区分）別人口の推移

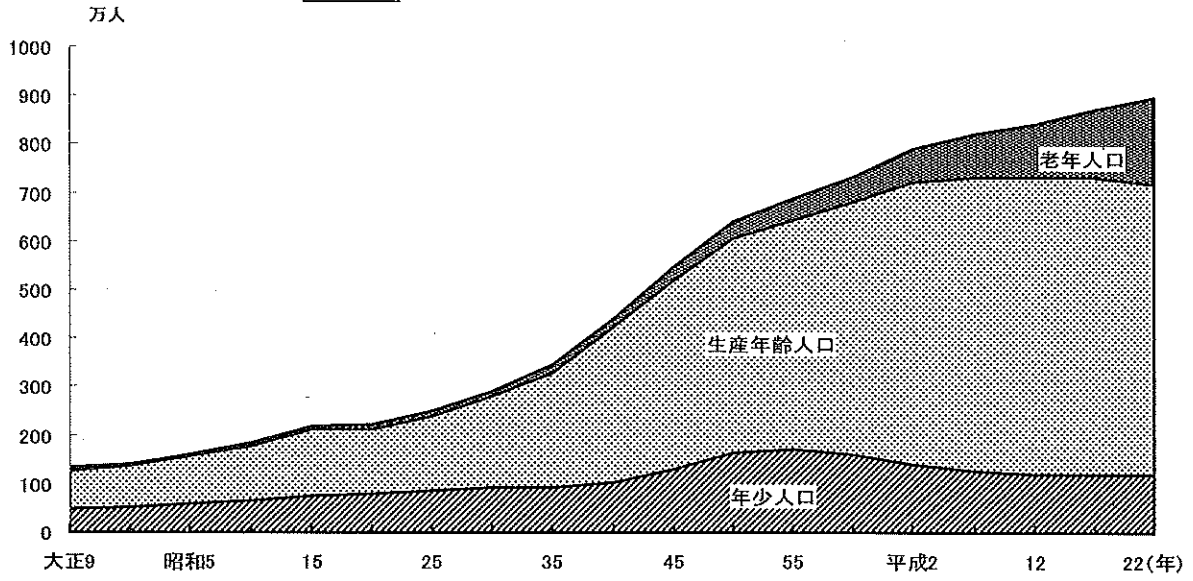


図3 年齢（3区分）別人口構成比の推移

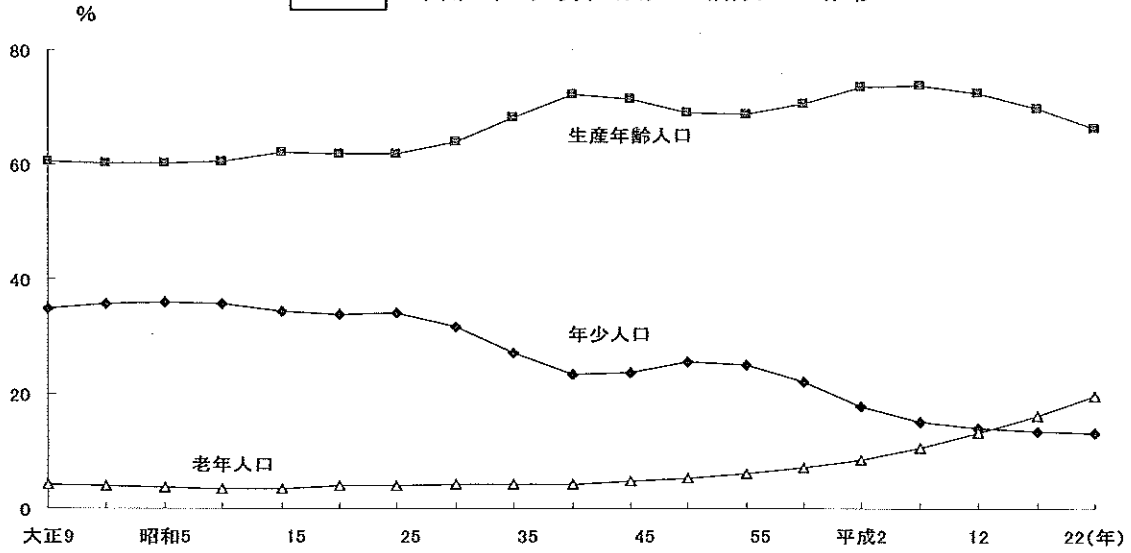
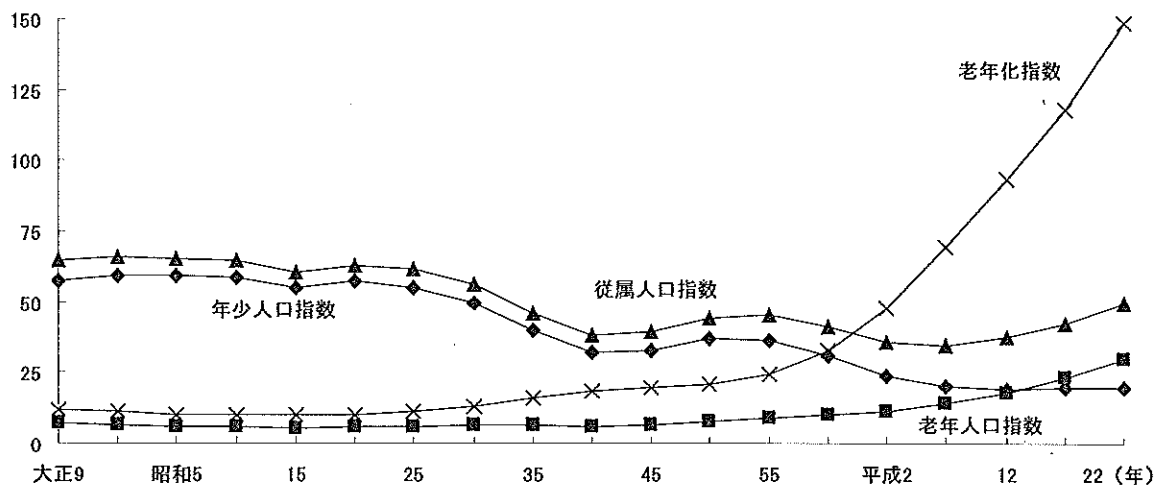


図4 年齢構造指数の推移

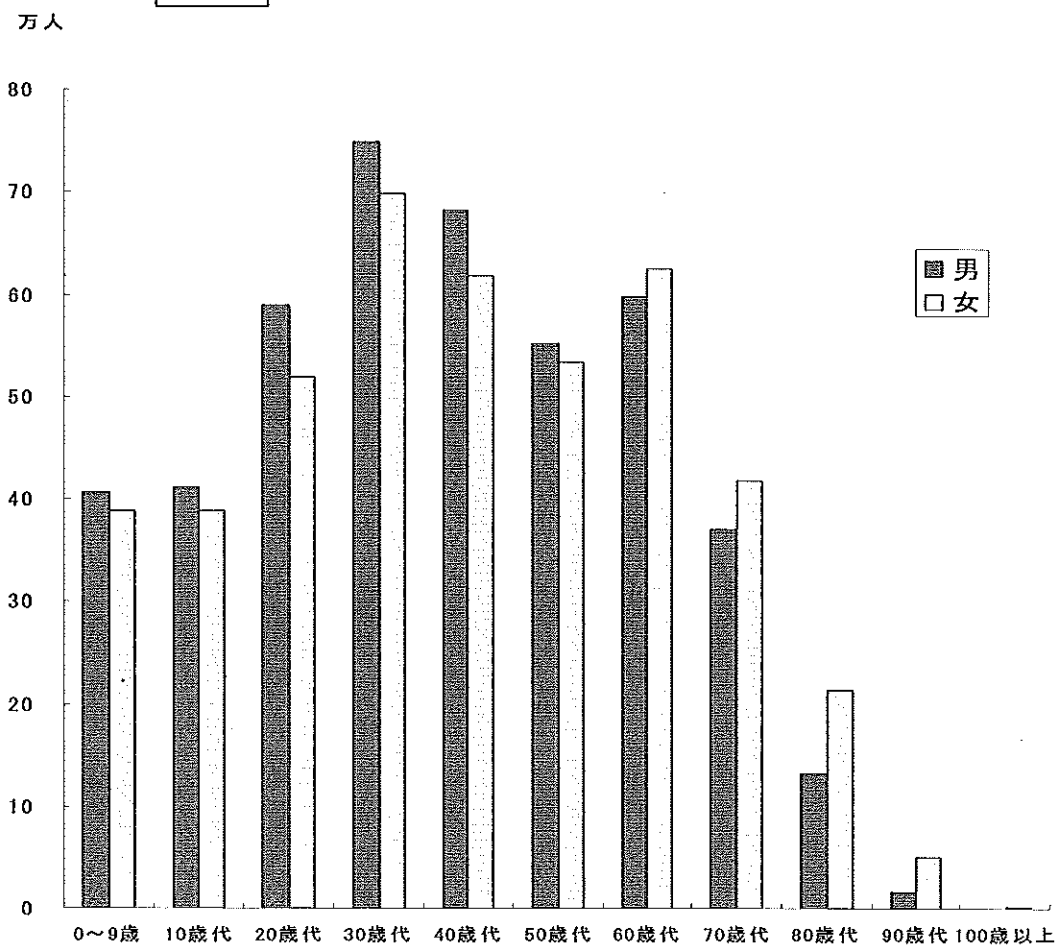


2 年齢（10歳階級）別人口

- (1) 年齢（10歳階級）別人口は、30歳代が144万9096人（総人口の16.1%）と最も多く、次いで40歳代の130万2587人（同14.5%）、60歳代の122万3212人（同13.6%）の順となっています。【図5、表3参照】
- (2) 前年調査より0歳代、20歳代、30歳代、50歳代の人口は減少し、その他の階級は増加しています。【表3、15参照】
- (3) 男女別人口で見ると、男性では30歳代が75万95人（男性総数に占める割合は16.5%）と最も多く、次いで40歳代の68万3181人（同15.1%）、60歳代の59万7748人（同13.2%）の順となっています。

女性でも30歳代が69万9001人（女性総数に占める割合は15.6%）と最も多く、次いで60歳代の62万5464人（同14.0%）、40歳代の61万9406人（同13.9%）、50歳代の53万3428人（同11.9%）の順となっています。【図5、表3参照】

図5 年齢（10歳階級）別、男女別人口数

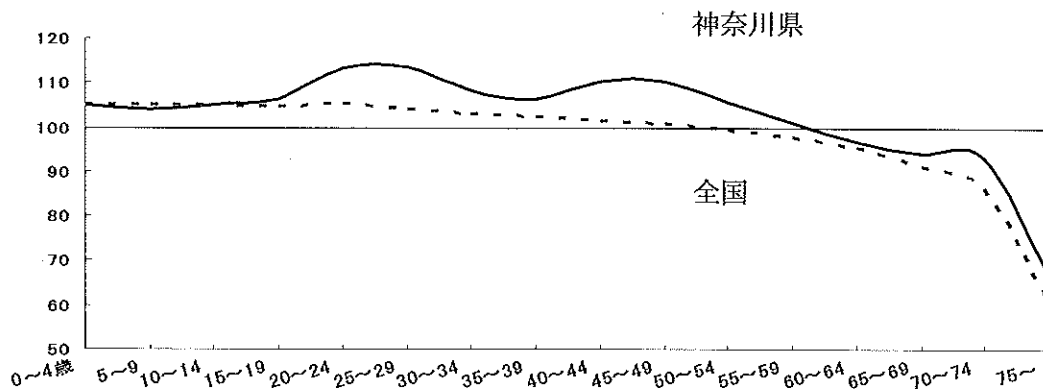


3 性 比

- (1) 総人口を男女別にみると、男性が453万6511人、女性が447万1621人で、男性が6万4890人多く、性比（女性100人に対する男性の数）は101.5で、前年調査に比べると0.2ポイント低下していますが、全国平均（95.0）と比べると6.5ポイント上回っています。【表4参照】
- (2) 年齢（5歳階級）別の性比は、20～24歳が113.4、25～29歳が113.6、40～44歳と45～49歳が110.3と、110を超えています。

また、これらの年齢階級の性比は、全国平均より著しく高く、20～24歳は8ポイント（全国平均105.4）、25～29歳は9.3ポイント（同104.3）、40～44歳は8.8ポイント（同101.5）、45～49歳は9.4ポイント（同100.9）、それぞれ全国平均を上回っています。【図6、表4参照】

図6 年齢（5歳階級）別性比



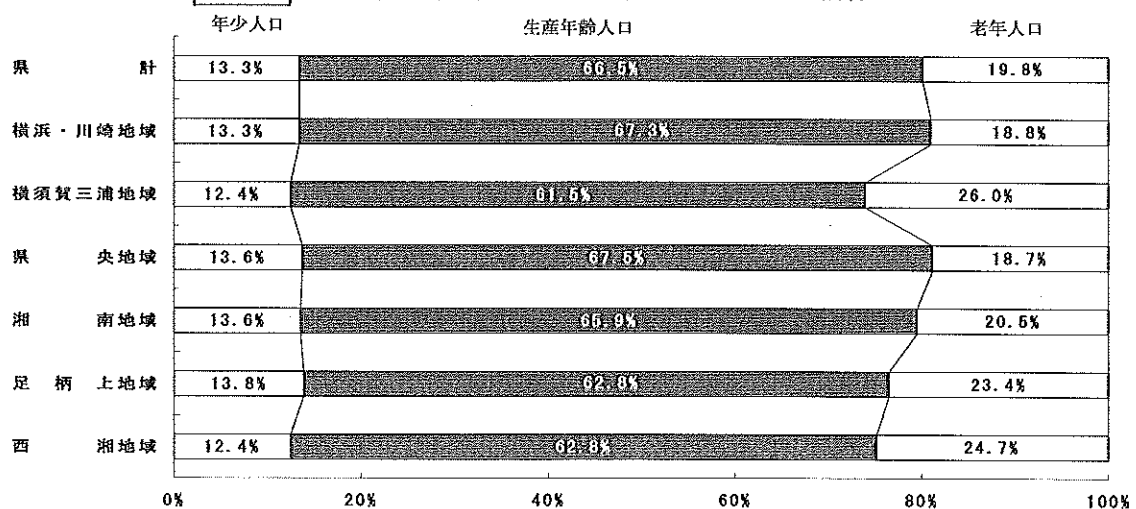
4 平均年齢

- (1) 平均年齢は43.12歳で、前年調査に比べ0.31歳高くなり、毎年、高年齢化が進んでいます。
【表5, 7, 11参照】
- (2) 男女別平均年齢は、男性が42.00歳(前回調査に比べ0.30歳上昇)、女性が44.25歳(同0.32歳上昇)で、男女を比べると女性が2.25歳高くなっています。【表5, 7, 11参照】
- (3) 地域別平均年齢は、横須賀三浦地域の46.43歳が最も高く、次いで西湘地域の46.05歳、足柄上地域の45.01歳の順となり、最も低いのは県央地域の42.45歳となっています。
【表7, 11参照】

5 地域別、年齢（3区分）別人口の構成比

- (1) 県内6地域（横浜・川崎、横須賀三浦、県央、湘南、足柄上、西湘）別の年齢（3区分）別人口構成比は、年少人口では足柄上地域が13.8%で最も高く、次いで県央地域と湘南地域の13.6%となっています。最も低いのは、横須賀三浦地域と西湘地域の12.4%となっています。【図7, 表6, 8, 11参照】
- (2) 生産年齢人口では、県央地域が67.5%、横浜・川崎地域が67.3%、湘南地域が65.9%の順となっています。【図7, 表6, 8, 11参照】
一方、最も低いのは横須賀三浦地域の61.5%、次いで足柄上地域と西湘地域の62.8%となっています。
- (3) 老年人口では、横須賀三浦地域が26.0%で最も高く、次いで西湘地域の24.7%、足柄上地域の23.4%の順となり、最も低いのは県央地域の18.7%となっています。
【図7, 表6, 8, 11参照】

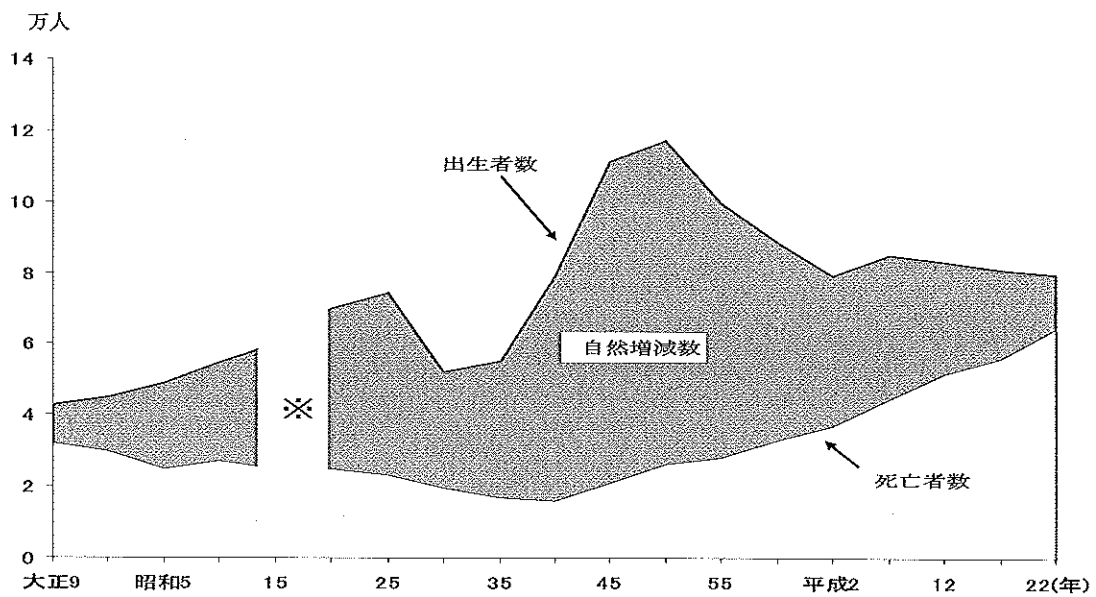
図7 地域別、年齢（3区分）別人口の構成比



6 年齢別異動人口

- (1) 平成 21 年中の人口増減は 4 万 2780 人で、その内訳は自然増減が 1 万 5296 人、社会増減が 2 万 7484 人となっています。【表 12～15 参照】
- (2) 自然増減[出生者－死亡者](1 万 5296 人)は、出生者が 7 万 9738 人、死亡者が 6 万 4442 人となっています。【図 8, 表 12～15 参照】
- (3) 社会増減[転入者－転出者](2 万 7484 人)は、転入者が 52 万 485 人、転出者が 49 万 3001 人となっており、なかでも 20 歳代の社会増減は 1 万 9334 人増と全体の 70.3%を占めています。【図 9, 表 12～15 参照】
- (4) 社会増減の 10 歳階級別人口のうち、0 歳代及び 30 歳代、50 歳代、60 歳代、100 歳以上の年齢階級で転出超過となり、その他の年齢階級で転入超過となっています。
また、20 歳代が転入者転出者とも最も多く、転入者は 17 万 8107 人で転入者総数の 34.2%、転出者は 15 万 8773 人で転出者総数の 32.2%を占めています。【図 9, 表 13, 15 参照】

図8 出生・死亡者数及び自然増数の推移



※昭和 14 年から昭和 20 年までの出生・死亡者数はデータ又は集計がありません。

図9 年齢(10歳階級)別転入・転出者数 (万人)

